

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 視点1「必然性のある場面設定」

##### (1) 低学年での取組

低学年では、「家族にプレゼントするカードを作ろう！」という単元のゴールを設定し、学習を行った。カードを作る色紙を集める場面では、児童の意欲を高める活動として「お店屋さん」を設定した。どんなやり取りが必要かを児童に考えさせると、「〇〇ください。」「ありがとう。」などが出された。その後、T1、T2でデモンストレーションを行った（資料2）。



資料2

T1・T2によるデモンストレーション

家族の好きな色や好きな物をテーマにすることで、「やってみたい!」「伝えたい!」という意欲を高めながら取り組むことができた。カードを作る計画を立てる中で、家族のことを思いながら何度もカードの構想図を書き直す児童の姿も見られ、目的意識をしっかりと実感しながら学習に取り組んでいる様子がうかがえた。また、児童はお店役とお客役に分かれ、色紙のやり取りを行うことで、「color」「~please.」「Here you are.」

「Thank you.」などの英語を用いた簡単な会話に慣れ親しむことができた。具体的な「お店屋さん」を想定することで、生き生きと活動することができた。以下に示すのは児童の授業後の発表である。



資料3 家族にプレゼントするカード

- ・おじいちゃんが喜んでくれるように、おじいちゃんの家にある池を作りました。おじいちゃんもたぶん喜んでくれると思います。
- ・大好きなパパとママに「好きだよ」の気持ちを込めてカードを作りました。ハートを赤にしました。

## (2) 中学年での取組

中学年では、「家族や友達、いつもお世話になっている人へカードを贈ろう」という単元のゴールを設定し、学習を行った（資料4）。カードは、

「ありがとうカード」「年賀状」「クリスマスカード」「バースデーカード」の4つの中から、児童たちが明確に目的意識をもてるであろう「ありがとうカード」と「年賀状」に絞って取り組んだ。

内容を絞ることで明確な相手意識が芽生え、児童一人一人が必要感を持ち学習に取り組むことができた。なかなか言葉では伝えられない感謝の気持ちや、自分の思いをカードの中に言葉と絵で表す児童が多かった。また、カードに描く絵は、この単元で学習する「形」を組み合わせ、自分が贈りたいカードの内容にふさわしい物を描くようにした。ハートをいくつか組み合わせ「花」を作ったり、三角や四角を組み合わせ「家」を作ったりすることで、必要となる形のパーツが増え、学習する英単語に数多く触れることができた。さらに、カードの計画書を基に必要なパーツを集めるために、お店役とお客役に分かれてやり取りの学習をした。低学年から慣れ親しんできた「色」に加えて、中学年で学習した「数」や「形」を新たな学習としてやり取りを楽しんでいた。「What do you want?」や「How many?」などの基本的な会話文を何度も繰り返すことで慣れ親しむことができた。単元のまとめとして一人一人、自分のカードを「誰に」「どんな気持ちを込めて」を加えて発表した（資料5）。カードには、児童たちの思いがしっかり込められており、発表を聞いていた児童たちも「うれしかった」と感想を述べていた。以下に示すのは児童たちの感想である。



資料4

家族へ thank you カード



資料5

作ったカードを発表する様子

- ・日頃は恥ずかしくてなかなか言えない「ありがとう」が言えてよかったです。
- ・友達が喜んでくれたので私も嬉しいです。形を英語で言えてよかったです。

### (3) 高学年での取組

高学年では、「自分の宝物を紹介しよう」という単元のゴールを設定し、学習を行った。8時間の学習時間を4つの小単元に分けて取り組んだ(資料6)。

第1小単元では、「世界の子どもの生活」、第2小単元では、「自分たちの生活」、第3小単元では、「自分たちの宝物」、第4小単元では、「世界と日本の違い」を学習した。実際に自分の宝物を写真に撮りカードにすることで、学習の内容がより身近なものとなり、お互いをより深く知るきっかけにもなった。また、これまで触れてきた「外国の文化」についても、単元を通して深めることができた。自分の宝物を伝え合う場面では、スピーチをする役と聞く役に分かれ交流を行った(資料7)。役割を二つに分けることで、やり取りをする回数が増え、より相手に伝わるよう声の大きさや発音の仕方、アイコンタクトなどのコミュニケーションポイントを意識する児童が増え「Why?」と聞き返す児童の姿も見られるなど、身近な英単語を使いながら会話をすることもできた。しかしながら、スピーチをする際に、読むことに必死になるが故に、表現が単調になってしまう児童もいた。

指導計画と評価計画(8時間取扱い、本時4/8)			
単元	単元	学習活動	評価の観点等 *は記録に基づき評価の場面で「具体的評価基準」
第1小単元	2	○世界の子どもの日常生活などについてのやりとりのおおよその内容を理解する。 1. 世界の子どもの生活について知ろう1 2. 世界の子どもの生活について知ろう2	「聞くこと」 【主】(ワークシート、行動観察) 相手のことを知るために、世界の子どもの日常生活などについて、短い話の概要を捉えようとしている。
第2小単元	2	○日常生活や宝物について伝え合う。 3. ふだんすることなどについて尋ね合う。 4. 宝物について尋ね合う。	「話すこと(やりとり)」 ★【知】(行動観察) what do you usually do on ~? I usually ~. What is your treasure? My treasure is ~. について理解している。 ★【技】(行動観察) 自分たちの日常生活などについてwhat do you usually do on ~? I usually ~. What is your treasure? My treasure is ~. を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。
第3小単元	2	○「宝物紹介カード」を作って、宝物について伝え合う。 5. 「宝物紹介カード」を作って、やりとりをしよう。 6. 「宝物紹介カード」を使って、伝え合う。	「話すこと(やりとり)」 ★【思】(行動観察、振り返り) 自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、自分の日常生活や宝物について、簡単な語句や表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合っている。
第4小単元	2	○世界の人々の生活などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。 7. 世界の人々の生活について考えよう 8. 日本語と英語の違いを知ろう。	「聞くこと」(ワークシート、行動観察) 【主】 外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、海外の国について短い話の概要を捉えようとしている。

資料6 単元の指導計画と評価計画(6年)



資料7 自分の宝物を伝え合う様子